

国際交流基金日本語国際センター 設立10周年記念特集

「日本語国際センター10年のあゆみ」

国際交流基金日本語国際センターは、1989年7月1日に、国際交流基金の附属施設として埼玉県浦和市に開設され、今年で10周年を迎えました。

今回は、設立10周年を記念して、日本語国際センターのこれまでの事業の実績を紹介します。また、過去の研修生から、センターでの研修の思い出などお送りいただきました。



国際交流基金日本語国際センター

国際交流基金日本語国際センターについて

海外における日本語学習者の大幅な増加に伴い、日本語教育に関する海外からの様々な要請も増加しています。

そのような中、海外における日本語教師・日本語教材の不足に対応するとともに、日本語教育に関する情報交流を推進するために、1989年7月、国際交流基金の附属機関として日本語国際センターが設立されました。

日本語国際センターでは、下記の3つの事業を中心に、海外での日本語教育に対する支援・協力を行っています。

1 研修事業

世界各国の日本語教師を日本に招へいし、日本語・日本語教授法などの授業や、日本の生活・文化を体験するための様々なプログラムを実施して、海外の日本語教師の養成を図ります。

2 教材制作事業

海外での日本語教材の需要に応えるため、教材の自主制作、海外での教材制作支援、海外の機関への教材寄贈などを行っています。

3 情報交流事業

海外での日本語教育に関連する情報の収集・整理・提供を行うとともに、日本語教育活動が円滑に、そして効果的に行われるようなネットワークづくりを目指します。

次ページ以降で、各事業の10年間の主な実績を紹介します。

感謝の集い

今年の7月1日、日本語国際センター設立10周年の節目を記念して、「国際交流基金日本語国際センター設立10周年 感謝の集い」が開催され、日本語教育関係者な

ど約200人が日本語国際センターに集まりました。

当日は日本とタイを衛星通信で結び、日本語国際センターの専任講師とタイの元研修生との会談なども行われました。



挨拶を行う
藤井国際交流基金理事長



記念式典出席者



衛星通信によるタイとの会談

1 研修事業

世界各国の日本語教師を中心に、10年間で108か国・地域、5,374名の研修生を招へいし、研修を行いました。

主な研修ごとの実績は以下のとおりです。

(1) 海外日本語教師長期研修（9か月）

48か国・441名（89年度より実施）

海外の中・高等教育機関等の日本語教師養成を図るため、主に若手の日本語教師を招へいして、日本語運用力の向上と基礎的な日本語教授法の研修を実施しました。

(2) 海外日本語教師短期研修（2か月）

68か国・1,405名（89年度より実施）

海外の初・中・高等教育機関等の日本語教師を招へいして、日本語、日本語教授法、日本事情の集中研修を実施しました。

(3) 在外邦人日本語教師研修（1か月）

54か国・381名（89年度より実施）

海外に長年滞在している日本人の日本語教師を招へいして、日本語学・教授法についての知識の整理と拡充を図ると同時に、最新の日本事情についての情報を収集する機会を提供しました。

(4) 大韓民国高等学校日本語教師研修（2か月）

272名（93年度より実施）

高校レベルの日本語教育が特に盛んな韓国については、韓国政府教育部との協力で、中堅の日本語教師を対象とした独自のプログラムを実施しました。



日本の文化を体験 - 「生け花の授業」

(5) 中国大学日本語教師研修（2か月）

237名（93年度より実施）

高等教育機関で日本語教育に携わる教師数が最も多い中国について、中国教育部等より推薦された教師を招へいし、中国の実情に合わせた独自の研修を実施しました。

(6) オーストラリアの日本語教師に対する個別研修

180名（92年度より実施）

オーストラリアの各州教育省などとの協力により、初・中等教育の教員を中心に独自研修を実施しました。

(7) 北京日本学研究中心日本語教師訪日研修

（1か月）

305名（89年度より実施）

「北京日本学研究中心」の日本語研修コースに学ぶ高等教育機関の日本語教師を招へいし、日本事情研修を実施しました。

元研修生から (1)



ドイツ

ヨーロッパ日本語教師会会長

磯 洋子

（94年度在外邦人日本語教師研修）

日本語国際センター開設10周年心からお祝い申し上げます。

在外邦人日本語教師研修に参加させていただいたのは平成6年でした。この研修に馳せる思いには特別なものがあります。単純にそれまで孤軍奮闘していた日本語教育の現場に寝食を共にして話し合える同僚を得た嬉しさ、「一番勉強になったのは地理」と言わせてしまうほど一度にたくさんの国の日本語事情を知ることができ、世界に広がる日本語教育、それに関わる教師の役割も参加者とともに自覚することができたからです。

4週間の「全寮日本語研修」を終え明日はみんなまた

それぞれの国に帰ってしまうのだと実感したとき、再開を約束して別れを惜しみました。その中でヨーロッパからの参加者13名は再び「孤軍」に戻りたくなく、これからみんなで情報を交換して日本語教育の発展のためにがんばろうと最後のお別れパーティーが「ヨーロッパ日本語教師会設立発起人会」となりました。これは今考えると当然のなりゆきだったかもしれません。

浦和研修の同窓会のつもりで出発したこの会も、今ではヨーロッパ25カ国、日本・アメリカを含む165名の会員数を持つ会となり、年1回開催するヨーロッパ日本語教育シンポジウムは今年で第4回を迎えるまでに成長しました。日本語国際センターにルーツを持ち、研修でのありあまる貴重な体験を忘れないたくさんの同僚が世界の日本語教育界でがんばっていると確信して止みません。研修生を代表し心から日本語国際センターに感謝申し上げます。

- (8) タイ中等学校日本語教師訪日研修（7週間）
60名（96年度から実施）

国際交流基金バンコック日本語センターがタイ教育省と協力して実施している、現職中学校教師を日本語教師として養成する集中日本語研修と連携し、同研修講座の受講生を招へいして、日本語・日本語教授法・日本事情の研修を行いました。

- (9) 日本語教育専門家派遣前研修（1週間）
145名（91年度より実施）

国際交流基金が海外に派遣する日本語教育専門家を対象として、派遣専門家としての役割や赴任地の社会、文化、日本語教育事情について学ぶ機会を提供しました。

- (10) 埼玉県JET青年日本語研修（1週間）
10名（98年度より実施）

埼玉県の中学・高校に配属されたJET青年（外国語指導助手）に、日本語運用力の研修を行いました。

- (11) その他

96年度までに、外交官日本語研修で65か国・161名、

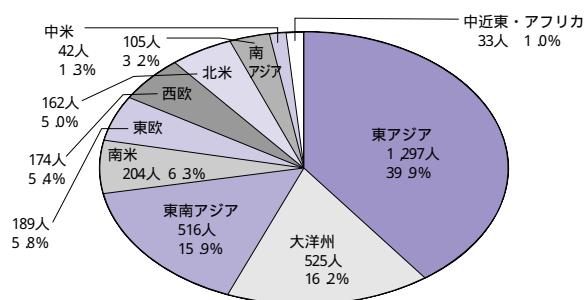
海外司書日本語研修で25か国・86名、海外日本語学習者成績優秀者研修で70か国・1,691名を招へいし、研修を実施しました。（この3研修は、97年度から関西国際センターでの実施となっています。）

研修参加者国別一覧（上位20か国）

単位：人

順位	国名	人数	順位	国名	人数
1	中国	774	11	ロシア（'93～）	106
2	韓国	769	12	ドイツ	92
3	オーストラリア	531	13	マレーシア	82
4	インドネシア	300	14	フィリピン	61
5	ブラジル	247	14	メキシコ	61
6	タイ	246	14	旧ソ連（～'92）	61
7	米 国	206	17	ベトナム	58
8	カナダ	123	18	フランス	57
9	ニュージーランド	121	19	イタリア	49
10	イ ン ド	119	19	ポーランド	49

教師研修参加者の地域別内訳



元研修生から（2）



インドネシア
Dharma Wiweka 高校教諭
Ketut Sudiarsa

（90年度海外日本語教師長期研修）
（97年度海外日本語教師短期研修（春期））

私は1回目1990年に9カ月の海外日本語教師長期研修で、2回目は1997年に2カ月の海外日本語教師短期研修で日本の北浦和にある日本語国際センターに行きました。

1回目の時、私は日本語が全然分かりませんでした。日本語国際センターの先生方は忍耐よく親切に日本語を教えてくださいましたので、だんだん分かるようになりました。研修のプログラムもよく役に立ちました。日本語のことだけではなく、教授法や文化や日本の生活、また、いろいろな行動授業も教えていただきました。例えば、生け花や書道や茶道やホームステイの授業などです。1990年に私はAクラスだったので一番低いレベルから勉強しましたが、1997年はCクラスになりました。

研修旅行は本当に楽しくていい勉強になりました。旅行の日程表はきちんと決められていて、ガイドさんもていねいな言葉で見学する所をよく説明してくれました。それだけではなく、旅館とホテルの違いも分かりました。

私はホームステイを3回しました。埼玉県の久喜市と与野市に1泊ずつして、お正月のときに大分県の臼杵市で10日間ぐらいしました。私のホームステイしたところ

のホストファミリーは親切で、いろいろな日本の生活をさせていただきました。特にお正月をお祝いするためにもちを作ったり、門松を作ったり、家をきれいにそうじしたりしました。毎日日本の料理をごちそうになり、大みそかの時にご家族とお寺へお参りにいきました。お正月の次の日に別府にあるきれいな温泉に連れていってくださいました。いい記念になりました。

1991年6月に帰国してから、インドネシア・パリの高校日本語教師たちに私の日本での活動を話しました。その時から日本語の授業を広げるためにいろいろ活動を作ります。例えば、日本語大会「弁論大会、日本文字書き方、問題に早く正しく答えるゲーム」や日本語勉強会などです。今までもジャカルタの国際交流基金日本語センターとインドネシア文部省と協力して、パリ州で高校日本語教師の研修を何回か行いました。そのほか、ジャカルタの日本語教師インストラクター特別研修も何回か参加したことがあります。インドネシアの高校の日本語の教科書もチームと一緒に作りました。最近、私はダルマウィウエカ高校だけではなく、デンパサール・クルタウィサタ観光専門学校やサラスワティ外国語専門学校やLP31コンピューター専門学校でも日本語を教えています。

最後に、北浦和の国際国流基金日本語国際センターの協力を心から感謝申し上げます。

2 制作事業

各国の日本語教育の自主的な発展を支援する事業の一環として、教材の需要に応えるため、教材自主制作・教材制作支援・教材寄贈を3本柱に事業を実施しました。

(1) 自主制作教材（現在提供中のもの）

イ 教科書・辞書.....15種類・19か国語

種類：

『日本語初歩』『日本語中級』『日本語中級Ⅱ』『基礎日本語学習辞典』『日本語への招待』『入門』シリーズ、及び各副教材等、他計15種類。

使用言語：

イタリア語・インドネシア語・ウルドゥー語・スペイン語・タイ語・ドイツ語・ハンガリー語・ビルマ語・ヒンディー語・ベトナム語・ベンガル語・ポーランド語・ポルトガル語・マラティ語・マレー語・モンゴル語・ルーマニア語・英語・韓国語・中国語・日本語 計19か国語。

ロ 視聴覚教材.....2種類

(イ) 『写真パネルバンク』シリーズ全5巻



(ロ) 『ヤンさんと日本の人々』シリーズ

・スキット（正・統計26話）

・『テレビ日本語講座初級Ⅰ』

（Let's Learn Japanese：BasicⅠ）

英語版と吹き替え等による各国語版を、韓国・中国本土・香港・タイ・ベトナム・フィリピン・スリランカ・オーストラリア・カナダ・米国・ブラジル・ギリシャの海外全12か国のべ19局で放映。

・『テレビ日本語講座初級Ⅱ』

（Let's Learn Japanese：BasicⅡ）

英語版と吹き替え等による各国語版を、韓国・中国・カナダ・米国の海外全4か国のべ9局で放映。

ハ 素材型教材.....1種類

「教科書をつくろう（練習編、説明編、音声テープ）」をロイヤリティーフリーで提供。

ニ その他

研修用教材3種類、教師用参考書9種類。

元研修生から (3)



オーストラリア

All Saints' College 教諭

Simone Johnson

（98年度豪州小学校日本語教員訪日研修）

今年の一月に、うらわしの日本語国際センターでセミナーに参加しました。やく三週間の日本語の授業と日本文化の授業は、日本での生活にちゅうもくしておこなわれました。たとえば、乗り物のことや買い物のことや食べ物のことなどについて、すべて日本語で教えてくれました。それから、大学の先生が来て、日本の伝説的な歌を教えてくださいました。また、アメリカンスクールから

来た先生がいろいろなゲームを教えてくださいました。

東京でいろいろな所を見物しました。歌舞伎や浅草や東京博物館などに行きました。そして、小学校をほうもんして、もう一人のオーストラリア人の教師と二人でオーストラリアについて授業をしました。

東京から新幹線で、京都に行きました。京都で旅館に一泊泊まりました。私は六かいめのらいにちですが、今度はじめておんせんに入ることを体験しました。雪が降っている中、野外のおんせんにのんびりつかりました。

そのセミナーはとても計画的だったと思います。東オーストラリアの日本語の教師に会えて、日本語が使えて、日本の文化について勉強ができました。本当に良い体験ができました。

(2) 教材制作支援事業

イ 日本語教育フェローシップ

21か国・85機関・104名（89年度より実施）

海外各国現地での主体的な日本語教材の開発や教授法・カリキュラムの開発を支援するため、海外の日本語教育専門家を日本に招へいし、制作・研究の機会を提供しました。

ロ 教材制作助成事業

29か国・170機関（89年度より実施）

海外において出版される日本語教材の制作企画に対して、制作費の一部を助成しました。

(3) 寄贈事業

イ 日本語教材寄贈事業

116か国・10,361機関（91年度より実施）

海外の日本語教育機関に日本語教材やワープロ機器を寄贈しました。（90年度までは基金本部図書課で実施されました。）

ロ 日本語教育器材寄贈事業

21か国・132機関（93年度より実施）

東欧・旧ソ連の日本語教育機関にビデオ機器やコピー機器を寄贈しました。

教材制作支援事業・寄贈事業の地域別実績（1989年度～1998年度）
（単位：件数）

	日本語教育フェローシップ	教材制作助成	日本語教材寄贈	日本語教育器材寄贈
アジア	46	91	2,750	
大洋州	5	14	2,163	
米州	11	29	3,038	
欧州	21	32	2,228	(東欧のみ)132
中近東	1	4	136	
アフリカ	1	0	46	
機関数合計	85	170	10,361	132
(国・地域数計)	(21)	(29)	(116)	(21)

元研修生から (4)



タイ

Kasetsart大学助教授

Soysuda Na-Ranong

(91年度海外日本語教師短期研修(春期))

国際交流基金日本語国際センターの設立10周年にあたり、心からお祝いを申し上げます。この機会に、平成3年度春の浦和での2か月の短期研修を振り返って考えたことを少し述べさせていただきます。

短期研修に参加した時から、気付かぬうちに8年もの年月が過ぎてしまいました。でも、浦和センターで起こった出来事、出会った人々は、良き思い出として今でもはっきり心に残っています。

浦和センターは設備も整っており、勉強や研究にふさわしい、大変素晴らしい施設だと思います。お気に入りの場所は、図書館、自習室、喫茶室でした。一人でいた

くない時、わざわざセンターの外にでかけなくても、他の人とコミュニケーションをとることができ、勉強だけでない楽しい生活を送ることができました。嬉しいことに、この時知り合った各国の友だちの何人かとは今でも文通しています。お互いに、いつか世界のどこかで再会できることを強く信じています。友情は国を超えて存在するものだとして初めて実感しました。

学校や大学などの訪問も有益でした。私の時には一校ずつしか訪問できなかったのですが、できればもっと多くの教育機関を見学したかったと思います。研修生たちは、大部分が母国で教職についているので、きっと興味を示すことでしょう。

最後に、このような素晴らしい研修の機会を与えてくださった国際交流基金に感謝いたします。センターで学んだことや日本で得た貴重な経験を活かして、ささやかながらも、タイと日本のかけ橋となるよう、これからも日本語教育に力を尽くしていきたいと思っています。センターでお世話になった皆様、本当にありがとうございました。

元研修生から (5)



タイ

Naresuan大学

Yaowaret Wangtrakoondee

(90年度海外日本語教師長期研修)

(98年度海外日本語教師短期研修(冬期))

私はタイのナレースワン大学のヤワレートともうします。今、ナレースワン大学 人文社会学部 言語学科日本語科で日本語を教えています。

私は1990年に浦和の国際交流基金日本語国際センターで、長期研修生として、日本語をならいました。この日本語国際センターに行く前に、私は日本語を話すじしんがあまりありませんでした。けれどもセンターに行き、いろいろ勉強して、いろいろな国の人とこうりゅうできて、とてもいい思い出だと思います。

そして、1999年にも短期研修生としてまた日本語国際センターに行けて、とてもいい思い出でした。日本のげんざいのことがみられて、とてもいい勉強になりました。

今、ナレースワン大学の日本語専攻の学生に日本語を教えています。げんざいの日本のことも教えられてとてもやくにたちます。ナレースワン大学はちほうの大学ですから、学生たちは日本人に会うきかいもあまりないし、日本のげんざいのこともあまり知らないし、先生は学生にしらせないといいけません。ですから今回の研修は、私にとっても、学生にとっても、いいことだと思います。

今年、浦和の日本語国際センターはもう10年になりました。私は、国際交流基金 日本語国際センターのみなさんにありがたいといつまでもおもっています。日本語国際センターは、日本語のがくしゅうしゃにとってとてもたいせつなところですから、ずっと研修をつづけてください。

3 情報交流事業

情報の交流を通じて海外の日本語教育の発展を支援するため、海外日本語教育状況調査、日本語教育関係資料の作成・配布、日本語教育専門図書館の運営等の事業を実施しました。

(1) 海外日本語教育状況調査

特定地域に日本語教育専門家や職員・専任講師を派遣し、当センターの各種事業のフォローアップ・調査等を行ったほか、1990年、1993年、1998年に海外日本語教育機関調査を行い、次の調査結果報告書を発行しました。

イ 『海外の日本語教育の現状 - 1990年 - 』
(92年3月発行)

ロ 『海外の日本語教育の現状 - 1993年 - 』
(95年3月発行)

* 98年調査の報告書は2000年3月までに発行予定です。

(2) 情報交流資料作成・配布

日本語国際センターが収集した日本語教育に関する情報や日本語教育・研究の成果を、内外の日本語教育機関や関係者に提供し、情報交流を促進するために、以下の資料を作成・配布しました。

イ 『日本語教育通信』
計33号(89年度より刊行)

海外の日本語教師に役立つ情報を提供するためのニューズレターです。センター研修生OB、基金の日本語教育派遣専門家、海外の日本語教師会等の協力も得て、内外の日本語教育情報を中心に掲載しています。

ロ 『日本語国際センター紀要』
計9号(89年度より刊行)

日本語国際センターおよび関西国際センター、海外日本語センターの専任講師・職員などの教育・研究活動の成果を発表するための論文集で、これまで通算58本の論文を掲載しました。

ハ 日本語教育論集『世界の日本語教育』
計8号(89年度より刊行)

日本語教育・研究に関する論文を広く世界から公募し、審査によって選ばれた論文からなる専門誌で、これまで通算127本の論文を掲載しました。

ニ 『世界の日本語教育 日本語教育事情報告編』
計5号(94年度より刊行)

日本語教育が実施されている国々の日本語教育・日本語学の研究状況や、日本語教育の実践・制度・政策の現状をまとめ、日本語教育関係者間の情報交流と連携協力を図るために発行するカレント・レポートで、



これまで通算97本のレポートを掲載しました。日本語教育論集『世界の日本語教育』の姉妹編として刊行しています。

(3) 日本語教育専門図書館の運営

日本語国際センターが招へいする海外日本語教師をはじめ、内外の日本語教育関係者の教育研究活動のための専門図書館として、日本語教材、日本語教育関係等の資料を収集・整理し、閲覧・貸出・レファレンスサービスを行いました。

蔵書数・利用者等の実績については以下のとおりです。

イ 日本語国際センター図書館蔵書数

(99年3月31日現在)

	冊数等
図書資料	30,412冊
視聴覚資料(ビデオ・LD・カセット・CD)	3,821点
マイクロ資料	383点
電子形態資料	97点
その他(絵教材・スライド・地図等)	260点
逐次刊行物(雑誌・紀要・ニューズレター・新聞)	517種

ロ 89年度～98年度図書館利用者及び貸出数実績

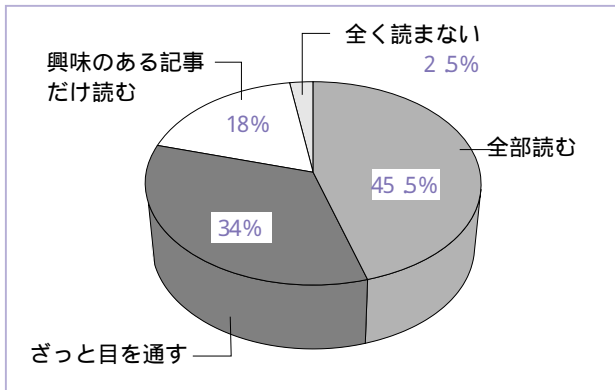
年度	利用者数	貸出数		
		研修生	一般	計
89年度	3,245	4,262	2,373	6,635
90年度	6,820	3,704	5,241	8,945
91年度	7,674	3,941	5,800	9,741
92年度	8,147	2,549	4,164	6,713
93年度	7,935	2,924	4,288	7,212
94年度	11,132	3,110	4,912	8,022
95年度	12,223	4,043	4,721	8,764
96年度	19,639	5,183	4,866	10,049
97年度	20,746	4,943	6,020	10,963
98年度	21,152	5,861	6,591	12,452
総計	118,713	40,520	48,976	89,496

『日本語教育通信』をよみますか？

～「読者アンケート」集計結果概要～

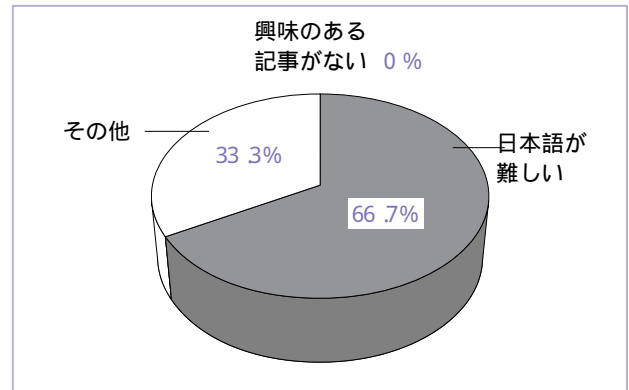
『日本語教育通信』編集部が本紙第33号（1999年1月号）で実施した「読者アンケート」には、52か国から476件の回答（回答率4.8%）をいただきました。その集計結果の概要を報告いたします。

1. 『日本語教育通信』を読みますか？



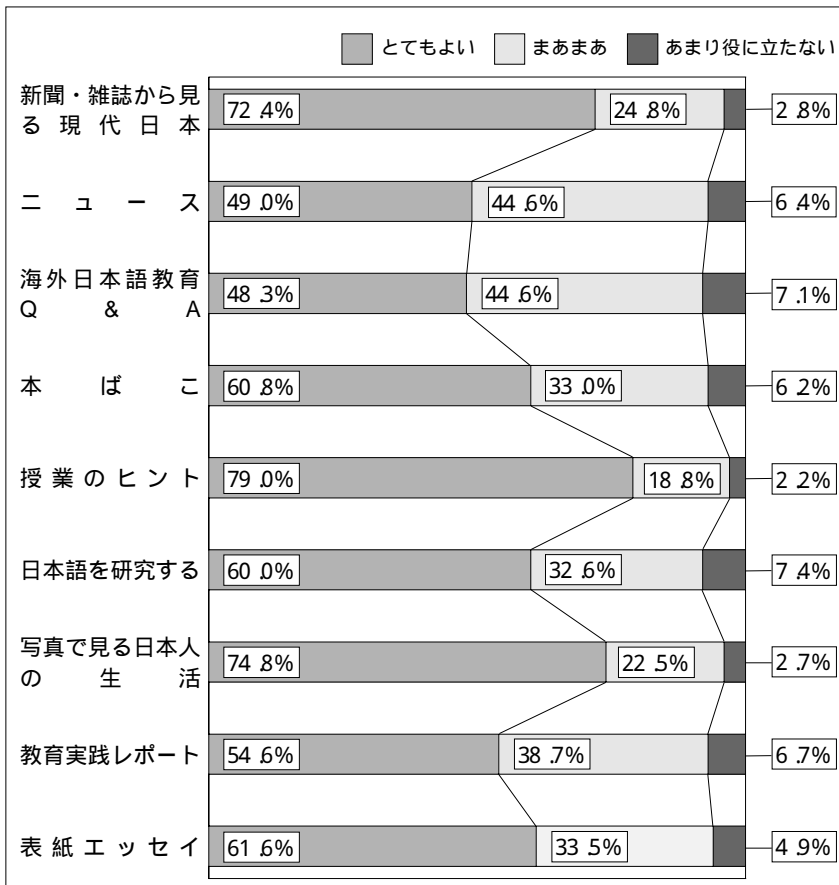
「毎号全部の記事を読む」という人が半数近くおり、「ざっと目を通す」人と合わせると、4分の3以上の人々が全部の記事を読んでいることがわかりました。

読まない理由は？



「全く読まない」と答えた12人に、その理由を尋ねました。記事の内容よりも日本語が問題になることが多いという結果が出ました。

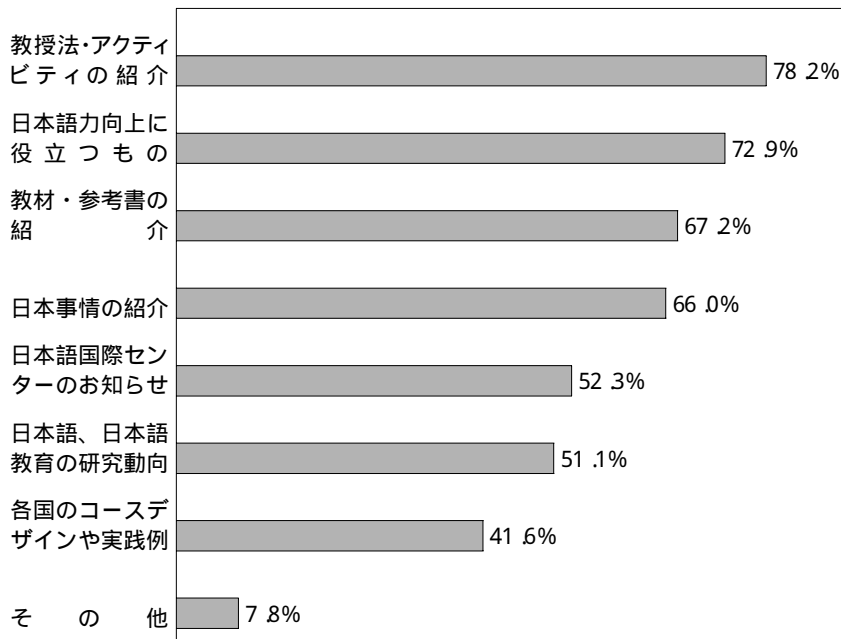
2. 掲載記事の内容について



連載中の記事を「とてもよい」「まあまあ」「あまり役に立たない」の3段階で評価してもらいました。

「授業のヒント」「新聞・雑誌から見る現代日本」「写真で見る日本人の生活」がベスト3で、授業のアイデアや教材、日本事情についての関心が高いことがわかりました。

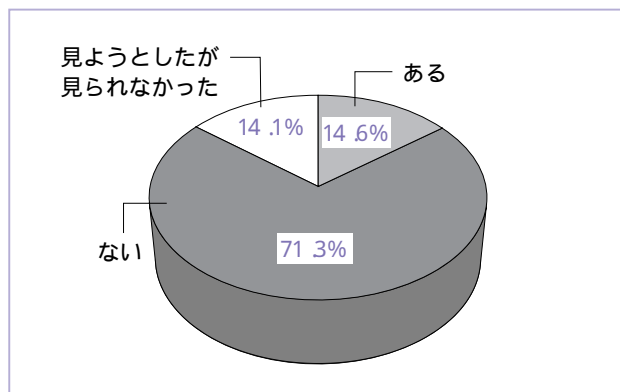
3. 今後の内容への期待（複数回答）



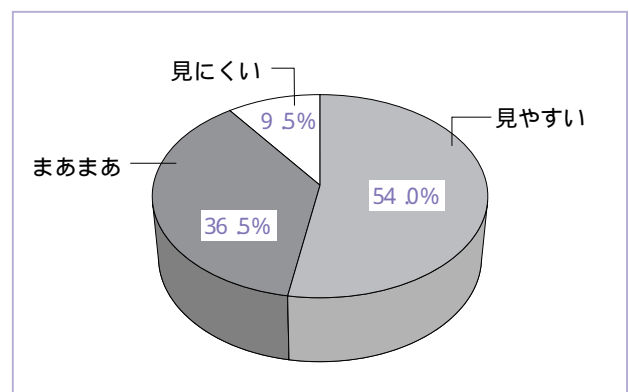
今後どんな内容の記事を期待するかを選んでもらいました。

「教授法や授業で使えるアクティビティの紹介」を望む人が一番多いことがわかりました。また、「日本語についての話題など日本語力の向上に役立つもの」や「日本事情の紹介」を期待する声も多く、日本語と日本文化に対しての先生方の興味が感じられました。

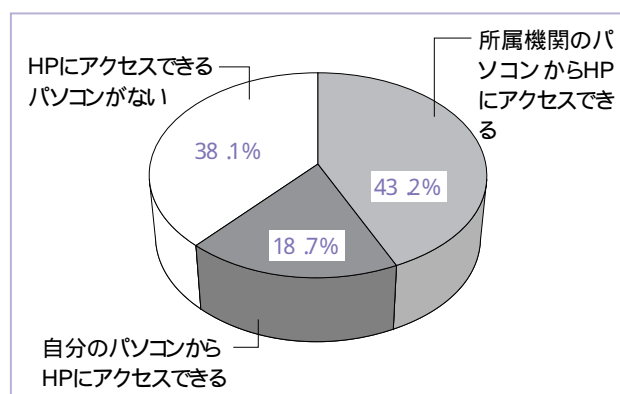
4. 『日本語教育通信』ホームページについて ホームページを見たことがあるか？



ホームページを見た感想は？



インターネットの利用環境



『日本語教育通信』を国際交流基金のホームページ上で「見たことがある」という人はわずかでした。ホームページを見た人には、その感想を「見やすい」「まあまあ」「見にくい」の3つから選んでもらいましたが、比較的いい評価が出ました。

インターネットの利用環境では、「ホームページにアクセスできるパソコンがない」という回答が全体の3分の1以上を占めており、インターネットが自由に利用できるのは、まだこれからのようです。

5. 『日本語教育通信』への要望・ご意見

『日本語教育通信』への意見を自由に記入してもらいました。「発行回数を増やしてほしい」「ページ数を増やしてほしい」という要望が多く寄せられました。「写真はカラー刷りで」という意見もありました。内容については、「年少者向けのアクティビティの紹介、日本の流行事情や流行言葉の紹介を入れてほしい」という声が聞かれました。

* 皆様のご意見は今後の紙面作りに生かしていきます。ご協力どうもありがとうございました。